

かつて路面電車が
走った町を歩く



野一色停留場●起点の徹明町から6つ目の停留場。この手前から専用軌道に入った(1981年3月)

今も廃線跡に多くの痕跡を残す

名鉄美濃町線さんぽ

岐阜県岐阜市・関市・美濃市

岐阜市内から北東に位置する関市や美濃市を結んでいた名鉄美濃町線は、平成17年4月1日に全線が廃止された。岐阜にはほかに名鉄岐阜市内線があった(美濃町線と同日に廃止)。美濃町線は市内線途中の徹明町停留場が起点。その場所に向かうと、乗り場の南側には駅ビルが残り、徹明町駅や「きつぷりば」の文字が見られた。美濃町線はここから岐阜東西通りを東に向かって延びていた。路面区間は線路跡が残っており、徹明町2番乗り場から、せき東山行きの岐阜バスに乗り込む。目指すは長森本町で、ここで路面から電車の専用軌道に入ったようだ。専用軌道跡は今も残っている。

長森本町でバスを下車。廃線跡は県道北側の家並みのなかを通り、やや広がった場所に野一色停留場跡を確認。当時の写真を提供してくれた多田さんの写真と見比べながら歩を進めた。痕跡がハッキリと確認できる場所もある。日野橋停留場跡は歩道橋から眺めると容易に確認できたが、上芥見と白金間の津保川橋梁は、鉄橋が撤去されたのに加え、河原の地形が変わり同じ場所に立つことができなかった。小屋名から先は道路整備で線路跡は見当たらない。さらに新開停留場跡

形もなくなっている様子だ。朝早くから歩いてきたが、冬の日没が近い。再びバスに揺られ、長良川鉄道の関駅に隣接する関シテイターミナルへ。時計を見るとタイミング良く下り列車が到着する時間。美濃市駅まで列車に揺られ、駅で電動アシスト付きのレンタルサイクルを拝借。美濃駅から関駅へ戻りながら廃線跡を訪ねた。

平成11年に廃止となった新開～美濃市間は一部遊歩道になっている。「この道は、名鉄美濃町線廃線跡地を利用して作られた【歩行者・自転車】専用道です、市民のみなさん大いに利用してください。」の看板が微笑ましかった。

1980
(昭和55年)



下芥見～上芥見間●線路は、下芥見から道路を離れてのどかな風景のなかを走っていた。小学校と小さな用水路に挟まれたローカルムード満点な場所に敷かれた軌道線跡が、廃止から16年経った今でもはっきりと残っている

2021
(令和3年)



2021
(令和3年)



上芥見～白金間●美濃町線で最も長かった津保川橋梁は廃止後に撤去された。現在は橋脚の痕跡が川底に確認できる程度だった。河岸の地形も変わって、当時の写真と同じ場所に立つことができなかった為か、背景の山の格好が少し違って見える

1975
(昭和50年)



1980
(昭和55年)

日野橋停留場●徹明町から来た電車は、ここ野一色で折り返した。徹明町、新岐阜両方の電車が続行で運行され、先へ向かう電車に乗り換えることができた。県道92号岐阜東南大野線に架かる歩道橋から眺めると、当時の面影が浮かんできた

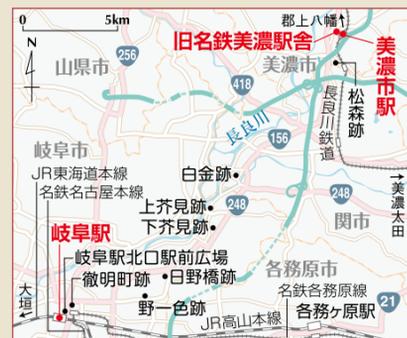
2021
(令和3年)



JR岐阜駅北口広場●美濃町線でも走ったモ513形。大正15年(1926)製造の古強者だ



森松停車場●森松停車場には、ホームと枕木が残されている



●観光の問い合わせ
美濃市観光協会 ☎0575-35-3660

右/終点の美濃停留場は廃止後も残され、現在4両の電車が保存されている(1両はカットボディ) 左/美濃停留場の駅舎は立派な木造駅舎だ



旧名鉄美濃駅

当時を伝える木造駅舎
美濃町線のうち、新開～美濃間は平成11年3月末に一足早く廃止された。かつて終着駅だった美濃は大正12年(1923)に現在地へ移転した際に建てられた木造駅舎。当時の姿のまま保存され、見学することができる。

☎0575-33-1122/9:00～16:30(4～9月は～17:30)、火曜休/見学無料/岐阜県美濃市広岡町2926-4/長良川鉄道美濃市駅から徒歩3分